

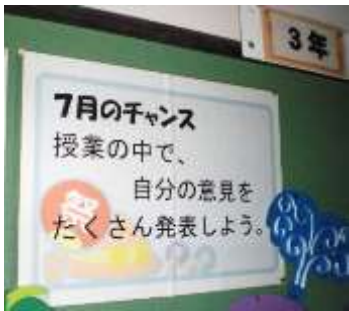
# 夢をもち、夢に向かって 期末号

## ☆ マジック！

「目標」を立てると、より前向きに活動できるという人がいる一方で、「目標」と言う「何としてもそこにたどり着かねばならず、その手前には苦しい道のりが待っている。」そんなイメージをもっている人がいるのも事実です。

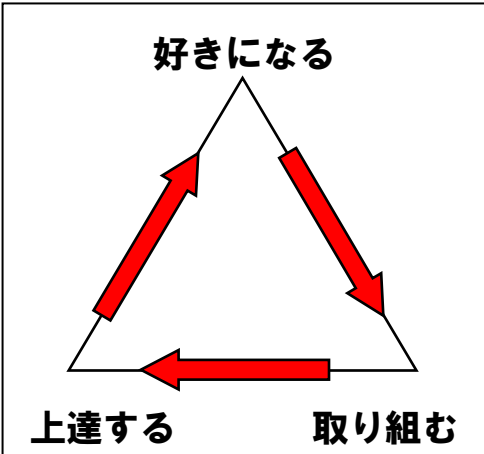
本校第3学年の学年掲示板には、「〇月のチャンス」という掲示物があります。内容は、その月の目標ですが、「目標」を「チャンス」という言葉に置き換えると、「〇月は、そこに記されていることができるようになるチャンス（よい機会。好機）だよ！」とも受け取れるし、「〇月のどこかに、そこに記されていることができるチャンス（よい機会。好機）が潜んでいるよ！」とも受け取れ、何かわくわくします。

言葉をひとつ置き換えるだけで不安をやわらげ、わくわく感にかえる「プロの教師の技」だなと感心しました。第3学年担任のI先生、F先生、KS先生のマジックに脱帽です。



## ☆ 夏休みのチャンス！・・・？

人は、物事が好きになると熱心に取り組むようになります。熱心に取り組むと適切な目標設定ができるようになり、その成果が上達につながります。上達すると、人は物事をより深く知り、さらには称賛に後押しされて一層好きになります。一層好きになると、一層熱心に取り組む、一層上達して、より一層好きになります。この「向上のトライアングル」のおもしろいところは、お気づきの通り、どこから出発しても同じ方向で回転を続けることです。夏休みは、1学期の学習で手応えが薄かったものをこの



「向上のトライアングル」に乗せるチャンスです。子ども達への声かけの程、よろしくお願いいたします。

## ☆ 標準学力検査（NRT）の結果をアップしています！

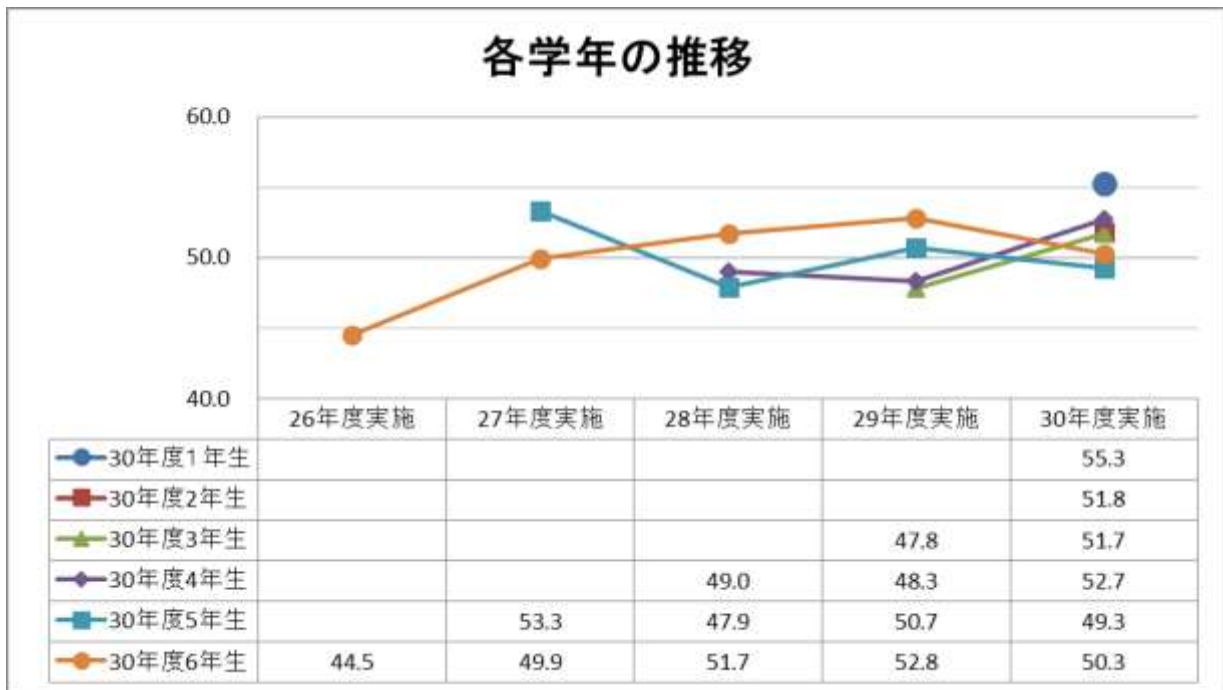
本校では、小学校1年生から6年生の児童の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善に役立てることを目的に、①教科総合（国・算）の学校平均偏差値50以上の継続、②教科総合（国・算）においてアンダーアチーバー児童の割合を10%以下にすること、を指標として、標準学力

検査 (NRT) を実施しています。

指標への到達に向けては、反復指導の計画的な実施 (診断テスト対策指導等を含む)、「見通し」「振り返り (形成的評価)」の設定と「かく」「話し合う」活動の充実、そして、家庭学習と朝の活動を関連付けた計画的な指導及び週末課題の確実な提示等の取組を粘り強く継続しているところです。

昨年度3月に実施しました標準学力検査 (NRT) の結果は、すでにホームページにアップ済みですが、この度は、学校通信でお知らせすることにしました。

※学校平均5年間の推移		(標準偏差値50に対して)				
年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	
本校 (A)	46.8	52.4	50.7	50.2	51.8	
嘉麻市 (B)	50.0	50.8	50.7	51.5	51.4	
(A) - (B)	-3.2	1.6	0.0	-1.3	0.4	
標準偏差値との差 (A) - (50)	-3.2	2.4	0.7	0.2	1.8	



#### ○分析

- 教科総合 (国・算) の学校平均偏差値は、51.8であり、標準偏差値50以上を継続することができた。
- 標準偏差値50を上回る学級は、67% (12学級/18学級) であり、依然として学年・学級間差がある。
- アンダーアチーバー児童は全校で12.6%で、目標の10%以下とはならなかった。学年別では1~4年生は10%以下を達成することができたが、5・6年生では10%を超える結果となった。
- 算数科の数値の伸びについては、習熟度別少人数授業を行ったことによる振り返りの場を位置付けたことにより、形成的評価が効果的であった。低・中学年において50以上の数値が見られたこと、低学年でアンダーアチーバー児童が5%以下であったことからもうかがえる。
- 複教科による朝の活動で家庭学習を中心とした習熟指導を行ったことは、基礎的な学習内容の定着を図る上で有効であった。
- 授業の中に「かく」「話し合う」活動を位置付けたことは、児童が自分の考えを「かく」ことへの抵抗感が低くなり、問題を最後まで解こうとする態度を身に付けさせることができたという点で有効であった。このことは、中学年においてアンダーアチーバー児童が10%以下であったことからもうかがえる。

#### ○今後の取組

- 【継続】
  - 1単位時間内における振り返りの場の設定 (形成的評価の重視)
  - 算数科における習熟度別少人数授業の計画的な実施と複数指導体制による指導
  - 家庭学習と朝の活動を関連付けた計画的な指導
  - 児童が書き進捗時間の確保と併せた解き方の解説及び教材集等の活用による発展問題への挑戦
- 【充実】
  - 「かく活動」「話し合う活動」の位置付け (算数科を中心に他教科へ)
  - 1単位時間内における共通点、相違点などの視点を明確にした「かく活動」の位置付け
  - 1単位時間内における考えを共有したり付加、修正したりするための「話し合い活動」の位置付け
- 【修正】
  - 家庭学習の習慣化
  - 「10分×学年+10分」の徹底を図るための買や量の系統性をもたせた補修用小学校専攻学習系統表の見直し (通常及び週末課題の提出率90%以上)
  - 生活アンケートの実施による家庭学習時間確保の振り返り (達成児童80%以上)

※ 紙面の都合上、見づらい部分がありますが、何卒ご容赦いただき、学校のホームページにてご確認いただけますと幸いです。